

令和6年度第1回相生市総合教育会議会議録

日 時	令和6年5月23日（木）15時00分から16時20分		
会 場	市役所3階 議員控室		
出席委員	谷口 芳紀	市長	
	坂本 浩宣	教育長	
	萩原 喜樹	教育長職務代理者	
	小西 毅	教育委員	
	西田 香子	教育委員	
	頭島 恵美	教育委員	
出席職員	久保 敏宏	企画広報課長	
	大西 博之	教育次長（管理担当）	
	木本 博子	教育次長（指導担当）	
	桑名 雅彦	参事（生涯学習担当）	
	富田 大三	管理課長	
	土居 哲也	学校教育課長	
	平松 孝夫	体育振興課長	
	高嶋 佳奈	人権教育推進室長	
	立巳 訓子	管理課副主幹（書記）	
傍聴者	なし		

1 開会

本日の会議における議案（その2）の協議事項については、公益上非公開とすべき事項であるため、相生市総合教育会議要綱第7条に基づき非公開とさせていただきます。

2 市長挨拶

本日は、令和6年度第1回相生市総合教育会議を開催させていただきましたところ、全員の皆様にご出席いただきありがとうございます。

さて、教育現場にも多大な影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症は、昨年5月に感染症法上の位置づけが5類へ移行し、コロナ禍前を取り戻す第一歩を踏み出しています。そのような転換期において、いち早く取り組んできた「教育・子育て支援・定住促進施策」を引き続き推進しながら、GXやDXが加速する時代にしっかりと対応したまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

このたび、皆様のお陰をもって市長就任7期目を迎えることができましたこと、御礼申し上げます。短い選挙期間ではありましたが、市民の皆様の声を聞かせていただく中で、市の取り組み、施策を進めていく上で、しっかりと市民の方の声を聞く、そして丁寧

に説明するということが大事であるということを再認識いたしました。今後とも、これからの未来を担う相生の子どもたちが心豊かに、たくましく生き抜いていけるよう、「教育」を重要施策とし、より良い教育環境を引き続き提供してまいりますので、各委員の皆様には、これまでと変わらぬ格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 協議事項

(1) 相生市の教育に関する重点施策について

ア 令和6年度の重点施策について

管理課長

令和6年度の重点施策については、「相生市教育振興基本計画」に基づき進めております、令和6年度「相生の教育」の主な事業を提出させていただきました。

(管理課より機構順に事業概要説明)

管理課	「相生市立小中学校適正配置計画推進事業」
学校教育課	「教育支援センター設置事業」、 「相生型ハイブリッド学習」推進事業」
生涯学習課	「SDGsの視点を取り入れた学びの推進」 「第5次子ども読書活動推進計画の策定」
体育振興課	「パラスポーツフェスAIOI事業」
人権教育推進室	「インターネットにふれるための人権学習事業」

以上の事業が、令和6年度の主要な事業となります。

これらの事業により、教育振興基本計画の推進を図ってまいります。

教育次長（管理担当）

それでは、ただいまの説明について、ご協議をお願いいたします。また、ご質問がございましたら併せてお受けいたしますので、よろしくお願いいたします。

小西委員

「子ども読書活動推進計画」とありましたが、税務署からの依頼で、今日の午前中に青葉台小学校で税金の授業をさせていただきました。

その中で最後のビデオを見た後に、税金がある場合、ない場合といった簡単な質問のプリントを配ります。できる子はサラサラと書けますが、できない子は質問の意味がわからないようでした。これは、読み取る力というものの差があるなと感じました。

読み取る力というものがなければ、相手の気持ちや、相手が嫌がることがわからない。そういったことに繋がるのではないかと思います。

できる子とできない子の差が見受けられて、やはり読書はとても大事なんだと感じました。

教育長

読書も体力と同じように二極化が進んでいます。体力では運動する子ども、しない子どもで差が出ており、読書の方でも、読む子は読むんですけど、読まない子は全く読書しないといった実態が続いてますので、読書の機会を作って、読書の習慣を仕向けていくようなことが必要だと思っています。

また、「教育支援センターの設置事業」について発言させていただきます。

昨日コスモス教室に行かせてもらいました。先ほどの説明の中にもありましたが、ここに通う子どもたちの学びを確保するために予算を取っていただいています。昨日は、英語の指導をする講師から、専門的な指導をいただいています。

1時間もつのかなと思って見ていたんですけど、いろんな教材を入れ替わり出してご指導いただいていたので、英語の楽しみ、面白さについて、コスモス教室の生徒は集中しながら学ぶ機会になっていました。

これは英語だけでなく、国語、数学、理科、社会の5教科、毎日ではありませんが月に何度か、退職された中学校の先生に指導いただいています。これは大事なことだと思っています。

市長

他によろしいでしょうか。

教育次長（管理担当）

それでは、協議事項（1）のア「令和6年度の重点施策について」ご了解いただいたということでよろしいでしょうか。

市長及び教育委員

はい。

教育次長（管理担当）

それでは、以上により令和6年度の事業を進めてまいります。

4 協議事項（追加）

（１）いじめの重大事態に関する再発防止の取組みについて

【非公開事件】

5 意見交換

教育次長（管理担当）

続きまして、協議事項（１）イ「その他」に移ります。

本日の総合教育会議は、市長と教育委員会が、教育に関する諸条件整備や重要施策について協議や意見調整を行っていただく会議となっております。最初に、今後の教育について、萩原教育長職務代理者から順に各委員の相生市の教育に関する所感をお聞かせいただき、次に、市長の教育に関する所感をお聞かせいただきます。その後、市長と各委員による自由意見交換を行っていただきたいと思いますと考えております。

それでは、萩原教育長職務代理者からよろしくお願いします。

萩原教育長職務代理者

５月１６日に兵庫県市町村教育委員会連合会の総会研修会が姫路であり、参加させてもらいました。今の教育には、たくさんの課題が山積していますが、その中でも児童生徒の不登校の問題について話がありました。

昨年、全国の児童生徒の不登校数が３０万人を超えたというような記事もありましたし、本市も例外ではなく、少しずつ増えているという話を聞かせてもらいましたので、危惧しています。

全国で不登校の児童生徒数が右肩上がりに増えているんですが、もっと心配なことは、学校に行きにくい子どもの保護者等が相談に来る数が減っているということです。不登校数が増えているのに、相談数は減っているということは、どういうことかと考えました。「本当に相談して解決してくれるのだろうか」そういう思いがあるのではないのでしょうか。

「相生市教育支援センターの設置事業」が本年度の重点施策の一つに挙がっておりますけれども、このセンターが、教育現場、子ども、保護者等の仲介役となって、１人でも多くの子どもたちが安心して学校に行けるような制度作りをしていくことが重要だと考えます。

相生市教育委員会は、いじめの問題に対して、きちっとした制度を作ってやっぴこうとしておりますが、子どもたちのために、これからも様々なことを考えていく必要があると思っております。

教育次長（管理担当）

次に、小西委員よろしくお願いします。

小西委員

私はこれから必要とされる能力としては、やはり I C T の活用に慣れるということだと思います。

我々世代になってくると、たまに変なメールが入ってきても、これが迷惑メールなのかどうか分からないことってありませんか。これが正しいメールなのか、騙されてるのか分からない。しかし、若い方は、一瞬でこれはダメなメールだとわかるんです。その嗅覚、やっぱり慣れてないとわかりません。

I C T は、いろんな生活サービスの中に入り込んでいます。何でもスマホでやるのが当たり前という時代になります。プログラミングなど I C T の勉強をすることが、とても重要になって来ると思います。

しかし、その反面、人と人とのふれあいもとても大切です。人の心がわかる人になって欲しい。どちらも同じ様に大事なことだと思います。

教育次長（管理担当）

次に、西田委員よろしくお願いします。

西田委員

幼稚園児でも、触って覚えて普通にタブレットを使います。「あいうえお」から勉強するものがあるので、遊んでるうちに、小学生になる前でも進んだ知識を持てる気がします。

私には来年小学生の孫が 2 人います。先日一人の孫をランドセルの予約に連れて行くと、自分で名前を書いていた。それが、どの程度普通なのかわかりませんが、もう一人の孫はまだ書けないと思います。欲しい本を尋ねたら、一人はシールを貼る絵本を選ぶけれど、もう一人は読むための本を選びました。今からこんなに差があるのかと思ってちょっとショックでした。

小学校に入ったら、すぐ名前くらい書けるようになると思いますが、その時までには色々知っている子とシールを貼って喜んでる子が一緒の一年生になるわけです。勉強している子はすごく進んでいる。それはどうなのかなと、ちょっと考えさせられました。

また、鈴木先生が亡くなられたのはやはり残念なことだなと思います。ほかにも私の師匠や先生が続けて亡くなられたので、色々と責任を感じていたのが少し外れたと思っていたら、自分が体調を崩してしまったので、やっぱり楽をすることはダメだと思い直しました。

今はペーロン祭の時期で、流れている鈴木先生のペーロン音頭などは、少しでも相生市の方に歌って踊ったりする機会を増やしていきたい、進めていきたいと思っています。

教育次長（管理担当）

次に、頭島委員よろしくお願いします。

頭島委員

私はまず、教育支援センター設置事業についてです。

コロナ過以降、不登校の児童・生徒が増えているというニュースを耳にします。

不登校になってしまった児童生徒も保護者の方も、負担が少しでも軽くなるような、また、将来に希望が持てるような、教育支援事業になることを期待しています。

また、第5次子ども読書活動推進計画についてです。今は、インターネットやスマートフォンの普及によって本を読む習慣が薄れていっていると思います。自分自身もそうですし、我が子を見ても感じます。中学校では読書の時間というものがあり、毎日本を読んでいましたが、卒業してその機会がなくなってしまいました。

本を読むという行為は、言葉を学んだり、表現を磨いたり、人格を形成する上でとても大切だと思います。スマートフォンやタブレットを使っても本を読むことはできると思いますが、子どもたちの心豊かな成長のためにもぜひ読書活動を推進していただきたいと思います。

教育次長（管理担当）

最後に、市長よろしくをお願いします。

市長

それでは、私から今後の教育に期待することについて、考え方を申し上げます。

私は、常々申し上げておりますとおり、まちづくりの基本は人づくりであると考えております。その人づくりの根幹となる教育が、まちの元気づくりの推進に非常に大きな役割を担っております。

そういったことから、相生市の今後の教育に期待することについて、3点申し上げたいと思います。

まず、1点目は、学校教育分野についてであります。

全国的に不登校児童生徒の数が増加している状況の中、相生市においても同様の状況にあります。子どもたちの問題行動等の未然防止、早期解決を図るため、学校、家庭、地域、関係機関が一体となって取り組めるよう教育委員会が先頭に立って進めていただきたいと思います。

また、コロナ禍を経て社会全体の対人関係が希薄になったといわれています。未来を担う子どもたちのため、ICTを活用した個別学習や協働学習の更なる充実を図るとともに、従来の「ふれあいや絆を重視した学び」の意義を尊重した「相生型ハイブリッド学習」の更なる推進をお願いします。

人権教育においては、多様性を認め合いながら、人と人とのつながりを大切にし、絆をさらに深めていただくとともに、SNSなどを起因とする事件・事故等において、子どもたちが当事者とならないよう、子どもたちの学習機会の充実をお願いします。

2点目は、生涯学習分野において、誰もが生涯にわたり文化芸術やスポーツに親しめるよう更なる事業の充実をお願いします。

まず、芸術文化の振興においては、賑わいの拠点となるよう、市民の多様な意見を反映しながら「なぎさホール」の自主事業の充実をお願いします。

また、スポーツ分野では、障害者のスポーツを通じた社会参加を図るため、障害のある人となない人が一緒に参加できる「パラスポーツフェスA I O I」を実施するとともに、日常的に参加する機会を提供し、パラスポーツの普及啓発と理解促進への取り組みをお願いします。

3点目は、市立小中学校の適正配置についてであります。令和5年度から3小学校校区で地域協議会を設置し、しっかりと協議を進めていただいていることと思います。今年度も引き続き、子どもの教育環境を第一に考えながらも、地域コミュニティの核でもある学校の在り方につきまして、地域の方々との十分な協議による合意のもとに進めていただきますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、相生の宝である子どもたちが主体的に物事を判断する力、未来を切り拓く力を身につけるとともに、豊かな心を持った人となるよう、引き続き「相生の教育」を進めていただきたいと考えておりますので、今年度も委員の皆様には、これまでと変わらぬ格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

教育次長（管理担当）

それでは、協議事項に関するご意見も含め、自由に意見交換を行っていただきたいと思います。

萩原教育長職務代理者

今、生成A Iなどが凄いですね。昔中学校の頃に技術の先生が、「機械に使われたらあかんぞ」と話をしてくれたのを覚えているんですが、何のことかその時はわかりませんでした。今思うとひょっとしたら、この時代のことを予言されていたのではないのでしょうか。

I C Tを使うことは必要だけれども、メリット・デメリットを考えて、豊かな心、そういうものを持ってやっていくことも大事ではないかと思います。

市長

この3、4年コロナ禍では、コミュニティが非常に希薄になったと言われてます。不登校もコロナの間に増えてきているようです。

市長

鈴木先生のペーロン音頭は、ペーロン護岸に碑があります。

西田委員

先生は、ああいうものは割と多く作曲されています。ただ、音頭とかは歌う機会がないですね。

今はペーロン祭の時期で、ペーロン音頭が流れていますが、もう年寄りでは、あのパレードの暑さの中では踊れません。子どもだけだと人数が少ないので、ちょっとでも何かの機会があればと考えてはいます。

市長

今年は陸上パレードはもう出られないんですか。

西田委員

私は、二十歳前から婦人会で踊って、子供会で踊って、つい最近4、5年位前までずっと踊っていました。ただし、ここ最近のペーロン祭ではあまりに暑いので、パレードで踊るのは難くなりました。でもやっぱり、ペーロン音頭の団体がないのは寂しいですね。

言い忘れましたが、やっと日本舞踊が国の重要無形文化財に指定されました。今まで全然相手にされず、指定されるのが遅すぎたような気がしますね。

萩原教育長職務代理者

ペーロン音頭は、幼稚園がパレードで踊ります。孫がY o u T u b eで音楽かけて練習していました。続けて欲しいと思います。

市長

他にご意見等はございますか。

教育次長（管理担当）

それでは、本日いただきましたご意見を踏まえ、事務局といたしまして今後の施策に反映すべく検討させていただき、また、予算措置が必要な事項については、関係部課との協議・調整に努めてまいります。

なお、次回は12月ごろ開催を予定しております。

それでは、本日の協議事項はすべて終了いたしました。閉会にあたり教育長よりご挨拶をお願いいたします。

教育長

本日は谷口市長には総合教育会議を開催し、いろいろと意見交換をいただき、感謝申し上げます。また、ご多忙の中、生涯学習の行事、学校での行事に、いろいろご参加いただきましてありがとうございます。

4月より教育長を務めさせていただいていますが、教員出身ですので、子どもや学校の目線を大切にした教育行政を進めることが期待されていると思っております。谷口市長はコスモストークで市民のご意見を受けておられますが、私も、子ども、保護者関係者、教職員の声をしっかり受け止める姿勢を大切にしながら、現場から目を離さない教育行政を行いたいと思っております。

現在、学校教育分野では、小規模校化している学校・幼稚園の今後のあり方、そして心の教育の問題。生涯学習分野では、担い手の育成・発掘が課題ではないかと思っております。特に学校の分野では、人間的なふれあいを大切にした授業や、充実した教育相談に取り組みたいと考えております。共に生きる、命を大切にする心の教育を一層進めていかないといけないと思っております。

今日ご紹介させていただいた施策の中で、具体的には触れられていないところとしては、学校の運動場の整備、体育館の改修もありますし、部活動の地域移行として、中学校の6月末夏季大会以降は、バスケットボール協会にご協力をいただいて、男子1チーム女子1チームの市内合同チームで活動することも進めていこうと考えております。

また、国内交流のイングリッシュキャンプ、須崎市に今年はぜひ行けるようになればと思っております。

いろんなことがありますけれども、子どもたち、保護者の皆さまに、「相生で教育を受けてよかった」と言っていただけますように、全力で丁寧に進めていきたいと思えます。引き続きご支援の方よろしく申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

令和6年度第1回相生市総合教育会議を終了